KITAMI
PONPOKO
KAIGI
NEWS

２０１４年７月３１日
喜多見ポンポコ会議

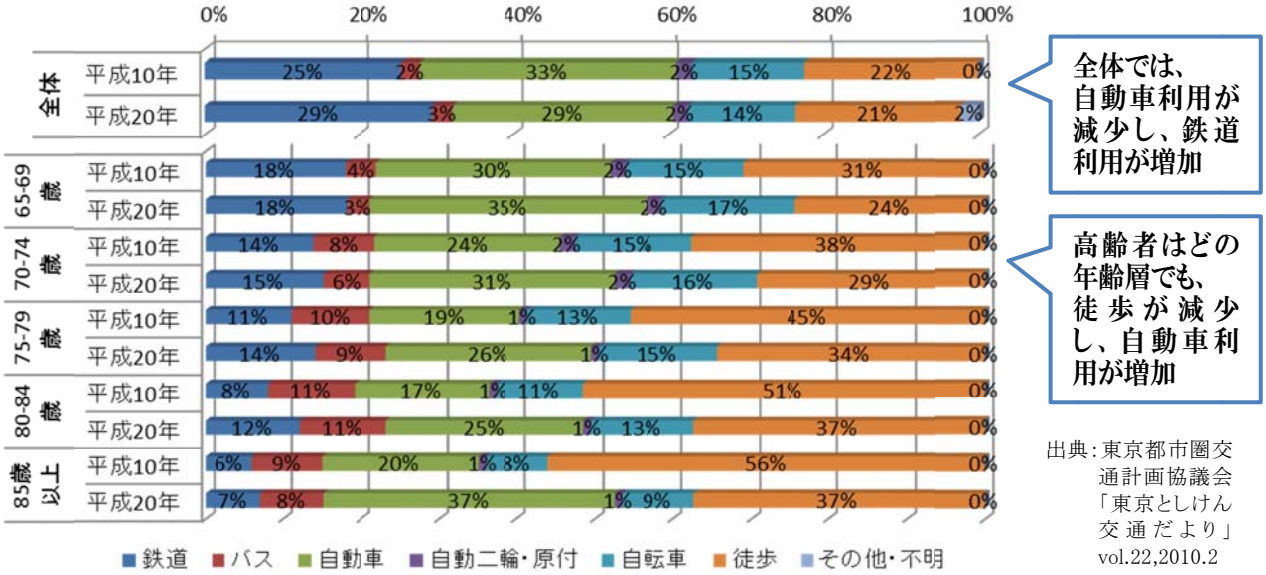
≪ 報道発表 ≫

―― 人の動きから見える東京都市圏 ――

高齢者の余暇を支えるために道路ネットワークを整備？

パーソントリップ調査は、「どのような人が」「いつ」「どのような目的で・交通手段で」「どこからどこへ」移動したかについて調査し、１日のすべての移動を捉えるものです。国と都県市および関係機関で構成する東京都市圏交通計画協議会が東京都市圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県南部）に居住している人を対象に、１０年ごとに実施しています。

全体では平成１０年から平成２０年にかけて、鉄道利用が増加し、自動車利用が減少しました。通勤目的や業務目的で、自動車利用から鉄道利用への転換が図られたからだと考えられます。しかし高齢者についてはどの年齢層でも自動車利用が増加しています。そして、平成４２年には全体でも自動車利用が再び増加すると予測されています。自動車が増えると予測された主な原因は高齢化の進展です。定年を境に生活や余暇等のための活動が増える、会社に行くときは主に鉄道が利用されますが日常生活では移動が便利な自動車を利用するだろうと考えられているからです。「高齢者の様々な活動や生活がしやすくなることは、生活の質の向上だけでなく、社会全体の活力の向上にもつながることから、高齢者の円滑な移動を支えることが重要」だとして、「骨格的な道路ネットワーク整備」を着実に進めることが重要とされています。



出典：東京都市圏交通計画協議会「東京としけん交通だより」vol.22,2010.2

一方で、自動車免許を持たない高齢者の移動、将来的に自動車に起因するCO_2の増加、自動車利用の増加による交通事故損失額の増加、社会資本の維持管理・更新費の増大が見込まれていることも課題としてあげられ、自己矛盾に陥っているように見えます。

参考：東京都市圏交通計画協議会「パーソントリップ調査からみた東京都市圏の都市交通に関する課題と対応の方向性」2012.1、東京都市圏交通計画協議会「東京としけん交通だより」vol.22,2010.2、vol.25,2012.7、vol.26,2014.3

喜多見ポンポコ会議（担当：江崎）
http://ponpoko.jpn.org